令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【西原中】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	①根拠をもって考え、自分の言葉で表現できる資質・能力 ②多様なテキストから必要な情報を読み取り、自らの学びに活用する資質・能力
⇩	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①「根拠をもって考える」場面づくり 国語は論理的読解、数学は説明・証明、社会は因果関係、理科は仮説検証、実技教科は制作過程の言語化等、各教科の特性に応じて「根拠を示して考える場面」の設定。【通年・全教科】 ②「テキスト体験」の拡充 読書に加え、AI対話・ウェブ記事・歌詞・図表資料等、多様なテキストに触れる活動を授業に組み込む。【通年・全教科】

⑤	年度末評価
学力向上策の実施状況	評価(※)
⇩	
今年度の成果と次年度の課題	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇩	
結果から考えられる児童生徒の実態	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇩	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価
学力向上策の実施状況	評価(※)
⇩	
学力向上策の見直し	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【西原中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	学年により多少の差はあるが、国語の漢字や文法知識に苦手意識が見られることが近年の生徒に共通しており、他教科を含めた思考の深まりに負の影響を与えていると想像される。そのため、引き続きスタサプタイムを実施し、基礎の定着を図るとともに、国語やG-Sに限らず、辞書を引く、インターネットで調べるなど、語彙力の充実（特に各教科で扱う用語）を図っていきたい。また、新年度には、日課の変更に伴って朝読書の時間が増えることもあり、長い文章に触れる機会を増やすことでも、語彙力の充実が期待できると考える。
思考・判断・表現	引き続き読解力向上タイムを実施し、まとまった文章を読んで自分の考えをプラスしながら話し合う活動や、難しい言葉のフォローアップを行う。また、朝読書の時間増や、国語科の授業でビブリオバトルなどを行うことで、本の内容について、自分の気持ちを表しながら他者に伝える工夫を身につける機会としていきたい。 従来から行ってきた振り返り活動では、他教科や他学年で学んだ内容とのつながりを、より意識させ、生きた知識として定着することを図っていきたい。

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>第3学年を中心に、国語科の「読むこと」や語彙力の点で課題があり、思考・判断・表現の面でも影響を及ぼしている。 <指導上の課題>生徒の誤りを丁寧に拾う時間が十分でなく、概念的な理解についても十分なフォローができていない。	⇒	・ 授業での説明のほかにも、全校でスタディサプリに取り組む時間の設定や、宿題配信など、基礎定着のための機会を確保する。【スタディサプリの時間：年間15回】 ・ 確実な基礎の定着のため、数学とG・Sの授業内で単元テストや語彙力テスト（スペリングコンテスト）などの基礎テストを繰り返し行う。【スタサプタイム：年15回、単元テスト：年4～5回、スペリングコンテスト：年10回】
思考・判断・表現	<学習上の課題>数学の証明問題など、自分の言葉で説明することに苦手意識があり、無回答率もやや高い。 <指導上の課題>話し合い活動など、自分の意見をいう場面で、発言できる生徒を中心に授業が進んでしまい、生徒全体の能力向上につながらないケースがある。	⇒	・ 新聞記事をもとにしたワークシートを利用して朝学習で「読解力向上タイム」の取組を行い、現代社会の出来事や、使われている言葉についての理解を深める。また、記事の要約や生徒同士の意見交換を通して、読む力と自分の言葉で説明する力を養う。【20分×年10回】 ・ グロウスログやYWTでの家庭学習および授業振り返りを継続し、書くことを習慣づけさせる。【単元ごと・各教科の授業】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	スタサプタイムは年間15回実施し、数学、社会、理科、G・Sの各教科の基礎の確認の時間として活用することができた。数学科の単元テストを各学年5回程度し、基礎問題を繰り返し戻ることで知識・技能の定着の機会として活用することができた。G・S科のスペリングコンテストは、各学年10回程度実施し、小学校で学んだ身近な英単語や不規則動詞などの定着の機会として活用することができた。
思考・判断・表現	B	読解力向上タイムは年間で10回実施した。1学期途中からは、取組の進め方の共通理解を図り、「読む」⇒「要約」⇒「話し合い」⇒「振り返り」のサイクルを各学年で行えるようにした。生徒の話し合いが進みやすいように、題材には、身近なものやタイムリーなものを選んだ。また、2学期後半からは、記事に登場した語句から、国語の授業で辞書引きをして取り上げるなど、記事の内容の理解が進むようなフォローアップも行うことができた。 YWTによる振り返り活動も引き続き行い、生徒が自分の言葉で表現する機会を確保するとともに、他教科との学びのつながりを意識することができた。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	国語・数学では、全国・県の平均を上回った。国語科の「読むこと」において、過年度の市学習状況調査（同一集団）と比較して、正答率・無回答率ともに改善が見られた。一方、漢字や語彙などの基礎知識に関しては、横ばいの正答率で、依然として課題が残る。同音異義語・同音異字の使い分け、慣用句、副詞を中心とした修飾語句等を苦手とする生徒が多いと考えられる。昨年度は同様の苦手傾向は特に見られなかったが、過去の全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、同じ傾向が見られた年があり、学校全体の課題といえる。理科では、「粒子」の領域の問題で正答率が低く、課題がみられる。これも概念の理解や語彙などの基礎知識が課題という共通点がうかがえる。
思考・判断・表現	各教科で記述式問題の正答率が全国・県平均を上回った。特に、国語では理由と共に、ある程度の長さの文で説明する問に対しても、無回答率があまり上昇することがなく取り組むことができた。継続してきた振り返りの記入や、話し合い活動を通して自分の言葉でまとめる指導の成果が現れてきたといえる。一方で、数学の証明問題など、難易度の高い問題では、無回答率が高くなる課題は残り、全国・県平均と比較しても、高い結果となっていた。理解が十分でない場合などには、途中までで取り組むことなく、解答をあきらめてしまっている可能性が高いと考えられる。過去の調査結果でも同傾向が見られるため、学校全体の課題といえる。

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	2学年では、各教科のほぼすべての分野で、平均正答率・無回答率とも、市平均を上回る結果となった。また、R6年度の結果と同一集団の結果と比べて、社会と理科では平均正答率を上回る割合が増加した。数学の図形・関数の2つの分野に関しては、R6年度、市平均をわずかに下回っていたが、R7年度もほぼ同様の傾向が見られ、学年全体の課題とどらえられる。 1学年では、各教科のほぼすべての分野で市平均正答率を下回る結果となり、無回答率でも理科を中心に市平均をやや下回った。調査な課題と考えられる分野は国語科の漢字・文法の部分である。多くの問で、無回答率は高くないものの、正答率は市平均を下回り、誤解したまま定着してしまった生徒が多いことがうかがえた。このことから、思考・判断の過程で、さらなる誤解を生じる可能性が高いと推定される。理科のエネルギー・粒子を柱とする分野では、他の分野に比べて理解度が高く、実験から学んだ内容に関する定着度が高いことがうかがえた。
思考・判断・表現	2学年国語の設問では、話すこと・聞くことの分野で昨年度の同一集団と比べて伸びが見られたほか、各教科の多くの分野で市平均や前年度の同一集団と比較して、上回った。 1学年では、市平均を下回り、特に国語の読むことや社会の政治や社会制度に関する考察を求める設問で無回答率が上がるなど、苦手意識が見られた。 生活調査の(38)(66)(67)に対する回答から、話し合いを通した学習活動に対する興味の大きさが読み取れることから、今後は、ディスカッションやディベート等の課題に取り組む際に、自分の話したことを後から文字にまとめるなど、論理的な文章を書く訓練を積むことが有効だと考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	1学期には、スタサプタイムを5回、単元テストやスペリングコンテストを各2～3回実施した。	変更なし
思考・判断・表現	B	1学期には、読解力向上タイムを4回実施した。「読む」⇒「要約」⇒「話し合い」⇒「振り返り」のサイクルを全クラス共通で行った。「要約」「話し合い」ではペアやグループを活用し、一人ひとりの生徒が自分の言葉で表現する機会を作った。また、各教科でのYWTの振り返りでは、教科横断的な学びを意識して実施した。	取組を継続しつつ、読解力向上タイムの記事中にあった同音異義語・同音異字や慣用句などに着目させ、国語の時間にフォローアップ（辞書引きなど）を行い、充実を図る。【10月～3月・6回】

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）